

古事記から学ぶ その 15
垂仁天皇の危機と苦悩

<1> 垂仁天皇の危機と沙本毘売命の死

垂仁天皇は沙本毘売命(さほびめのみこと:又の名を佐波遅比売命)を后として寵愛していた。

ある日のこと、沙本毘売命の兄である沙本毘古命(さほびこのみこと)が妹に尋ねた。

「お前は、夫(垂仁天皇)と兄である私と、どちらが大事か」

予想外の質問に、沙本毘売命は思わず「勿論お兄様です」と答えた。

「ならば、俺とお前とで天下を取ろう」と言って、切れ味鋭い紐小刀を渡して、「これで天皇を殺せ」。

天皇は、こんな企みが蠢いているとも知らずに、いつものように後の膝を枕にして、うつらうつら。

紐小刀を手にした沙本毘売命は何度か刀を振り上げはしたものの、刺し殺すことはできず、万感胸に迫り思わず落涙。膝枕をしている天皇の顔面に落ちてしまい、目が覚めてしまった。

天皇は、「今不思議な夢を見た。ふいに雨が降り出して顔を濡らすほどになった。おまけに錦色の小さな蛇が私の首に巻き付いた。この夢にはどんな意味があるんだろう」

沙本毘売命は、もはや隠し続けることは不可能と感じて、事の経緯を白状した。

天皇は、軍隊を召集して沙本毘古命討伐の指示を出した。沙本毘古命は稲城(いなぎ)を積み上げて応戦の体制を取った。沙本毘売命は我が身が起こした禍ながら、兄を思う気持ちが勝り、宮殿を抜け出して積み上げられた稲城に身を投じた。ところが、この時沙本毘売命は身重な状況だった。

天皇はこの事態に気づき、攻撃の手を緩めさせてしばし睨み合いだけの状況になり、その内に月が満ちて子が生まれた。沙本毘売命は稲城から飛び出して、天皇に向かってこう言った。

「もしこの子をあなたの子と認めるならば、私の罪を許して、この子を御子としてお育て下さい。」

天皇は、後も合わせて取り戻したいと考えて、兵の中から力持ちで敏捷に行動できる者を選んで

「御子を引き取り、一緒に後もつれて来い。髪でも腕でも掴んだら引き出してこい」と命じた。

沙本毘売命は天皇の動きを察知して、髪を剃り落として、その髪で鬘を編んで頭上に載せ、腕には玉の緒を腐らせて巻き付け、酒で腐らせた着物を身につけて、御子を稲城の外に差し出した。

兵たちは御子を受け取るや否や沙本毘売命を引き出そうとしたが、髪をつかんでも、着物などを引っ張っても引き出すことはできなかった。天皇は后に向かって、問いかけた。

「御子の名前は母親がつけるもの、何と名付けたらよいだろう」「どうやって育てたらよいだろう」

「稲城を焼く炎の中で生まれた子なので、●本牟智和氣御子(ほむちわけのみこ)として下さい」

「乳母や湯坐(ゆえ:湯あみをさせる)の女を定めて養育して下さい」と応じた。さらに、

「この先誰を後に迎えたらよいだろう」と問いかけると、「丹波(たにわ)の比古多多須美智能宇斯王の娘である兄比売(えひめ)・弟比売(おとひめ)は心が清らかなので良いと思います」(*註)

この後、天皇の軍は攻撃を開始し、沙本毘古命は命を落とした。またこれを見た沙本毘売命も稲城を焼く炎に身を投じて、自死した。

*註:兄比売(えひめ)・弟比売(おとひめ)について

前篇(古事記から学ぶ その 14)に示した系図では、兄比売(えひめ)は、氷羽州比売命(ひばすひめのみこと)、弟比売(おとひめ)は、沼羽田之入毘売命(ぬばたのいりびめのみこと)と記されている。垂仁天皇と氷羽州比売命の第二子である大帯日子淤斯呂和氣命(おおたらしひこおしろわけのみこと)が次の(12代)景行天皇になった。

垂仁天皇は、母のない我が子（本牟智和氣御子）を不憫に思い、一層の愛情を注いだ。

ある日、大空を鳴き渡る鶴の声を聴いて、口を開けて言葉らしきものを呟いた。天皇は、山辺の大鶴（おおたか）という者に、この鶴を捕まえてくることを命じた。

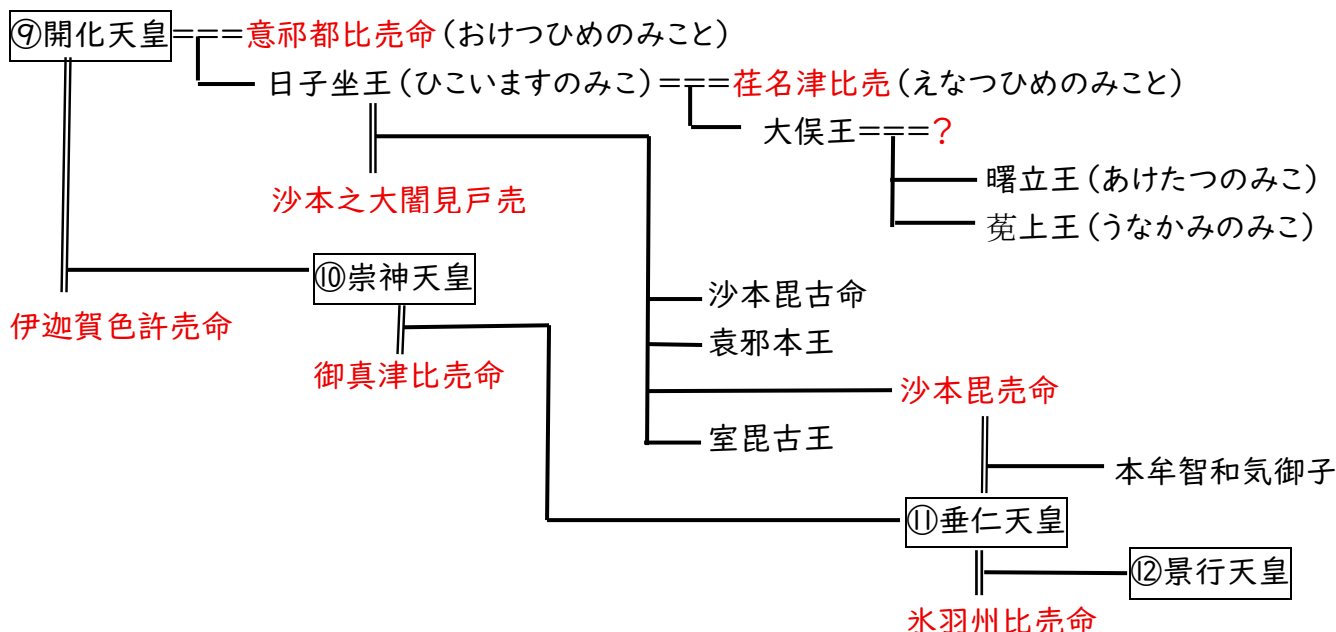
天皇はこうして手にした鶴を御子に見せて、その反応を期待したのだが、御子は一言も発しなかった。さらに悩みを深めた天皇は、ある晩夢の中に現れた神に教示を受けた。その神はこう言った。

そこで、天皇は占いを立てて「いかなる神の思し召しか」を尋ねたところ、出雲の大神の御心から出ていることがわかり、御子を出雲の大神宮へ行かせることにした。さらに、出雲への旅の随行は誰が良いかを尋ねたところ、曙立王（あけたつのみこ）の名が示された。

次に、「我が誓いによって生き返れ」と言うと、鷺は元通り生き返った。さらに、甜白檮崎（あまかしのさき）に生える白檮（かし）の木を枯らしたり生き返らせたりして霊驗の存在を確かめた。

そんなことから、この曙立王には、●倭者師木登美豊朝倉曙立王（やまとはしきとみとよあさくらのあけたつのみこ）の名を賜った。出雲への旅の随行者としては、弟の菟上王（うなかみのみこ）も選ばれた。

ここで、「古事記から学ぶ その 13」に遡って、ここまでの登場人物のプロフィールを確認しておくことにする。本編の<1>項で登場した沙本毘古王の兄妹と、<2>項で登場した曙立王の兄弟の、天皇の系図の中での位置関係はこうなっていた。



<4> 出雲への旅

天皇の命により、本牟智和氣御子の回復を願って、曙立王と菟上王は御子を伴い出雲に旅立つことになり、道のりを占った。占いの結果は「奈良山越え、二上山を越える大坂道も良くない、木の國へ通じる真土山を越える道は遠回りではあるがよかろう」と出た。

道すがらの泊りの度に、御子（本牟智和氣御子）の名代として、品遅部（ほむじべ）の部民を定めた。出雲の國に着き、予定通り出雲大神を拝んで都への帰途、肥河（ひかわ：今の斐伊川）の流れの上に木を並べて黒櫟（くろす）の橋を造り、その傍に仮の宮殿を造って御子をお泊めした。

すると、出雲の国造の祖先である●岐比佐都美（きひさつみ）が、青葉の茂った木々を配して築山を造って、御子をもてなした。その時、御子が初めて口を開いた。

「清々しい青葉が山のように見えるが、あれは山ではなく、出雲のいわくまの曾の宮にいる葦原色許男神（あしはらしこをのかみ）に仕える神主たちの櫛を立てた祭壇ではないか？」と尋ねた。

（*註：葦原色許男神は大国主神の別名）

随行の人たちはみな喜んで檳榔樹の葉を屋根に垂れるように並べ、「檳榔（あじまさ）の長穂宮」を建て、御子をそこに据えた。そして、早馬を仕立てて、御子が口を開いたことを知らせに走った。

この宮で、御子は●肥長比売（ひながひめ）と一夜を共にした。そして、この比売の寝姿に目をやって驚いた。肥長比売は、実は大蛇だった。驚いた御子は船に乗って逃げ出したのだが、比売も船で後を追いかけてきた。おそろしくなった御子は途中で船を引き上げて逃げ去った。

一方、早馬で都に走ったメンバーは、天皇の前に出て、御子が口を開いたことを報告した。

報告を受けた天皇は大層喜んで、菟上王を再び出雲に向かわせて、神宮を建造させた。そして御子のために、鳥を捕まえる鳥取部（とりりべ）、鳥を飼う鳥甘部（とりかいべ）、品遅部（ほむぢべ）、大湯坐（おおゆえ）、若湯坐（わかゆえ）などの部民を定めた。

（*註：追っ手を振り切って逃げた御子がどうなったのかは、書いてないのでわからない）

<5> 沙本毘売命を失った垂仁天皇

垂仁天皇は、沙本毘売命が命を落とす前に言っていた言葉に従って、兄比売（えひめ：氷羽州比売命）・弟比売（おとひめ：沼羽田之入毘売命）の姉妹を后としたのだが、それだけでは終わらず、さらにその妹である●歌凝比売命（うたこりひめのみこと）・●円野比売命（まとのひめのみこと）も后とし、結果として丹波（たにわ）の比古多多須美智能宇斯王の四人の娘と契りを交わした。

ところが、先の二人に比べてあとの二人は姿形があまり良くなかったので、上の二人だけを宮中に入れて、歌凝比売命と円野比売命は丹波に送り返してしまった。

円野比売命は、このまま丹波に帰っても恥ずかしいだけと悲嘆にくれて、山城の國の相楽（さがら）まで来た時に、木にぶら下がって自殺を試みた。このことからこの地に懸木（さがりき）の地名が生まれ、のちに相楽（さがら）となった。今は京都府相楽（そうらく）郡として残っている。

さらに進み、弟國（おとくに）まで来た時に深い淵に落ちて命を落としてしまった。この地は墮國（おちくに）と呼ばれ、のちに弟國（おとくに）となった。今は京都府乙訓（おとくに）郡として残っている。

この天皇は、三宅の連などの祖先である●多遲麻毛理（たちまもり）を遠い常世の國に派遣して時じくのかくの木の実を求めに行かせた。多遲麻毛理は、はるばる辿り着いた常世の國で、葉の茂っている枝を八本と実の付いている枝を八本手に入れて、持ち帰った。ようようにして都に戻ってきた時には、天皇はもうこの世の人ではなかった。持ち帰ったものを四本ずつに分けて、一方を太后である氷羽州比売命に献上し、残る一方を天皇の陵に捧げて、墓前で号泣して息絶えてしまった。この木の実は、今風

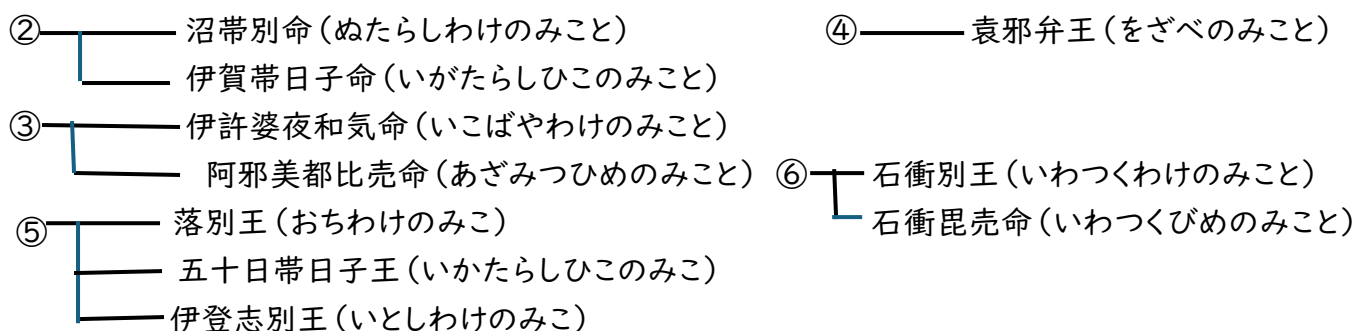
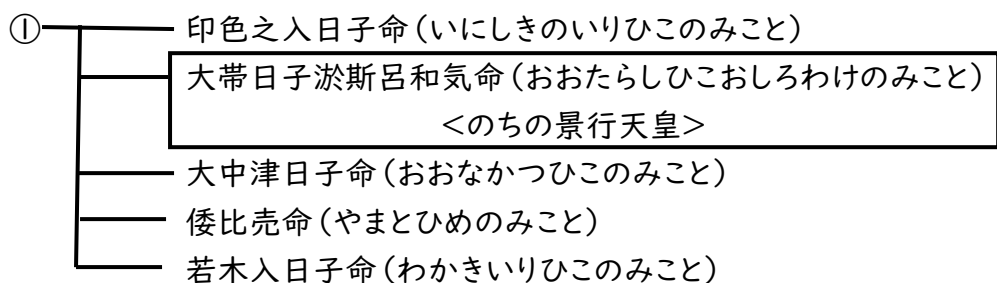
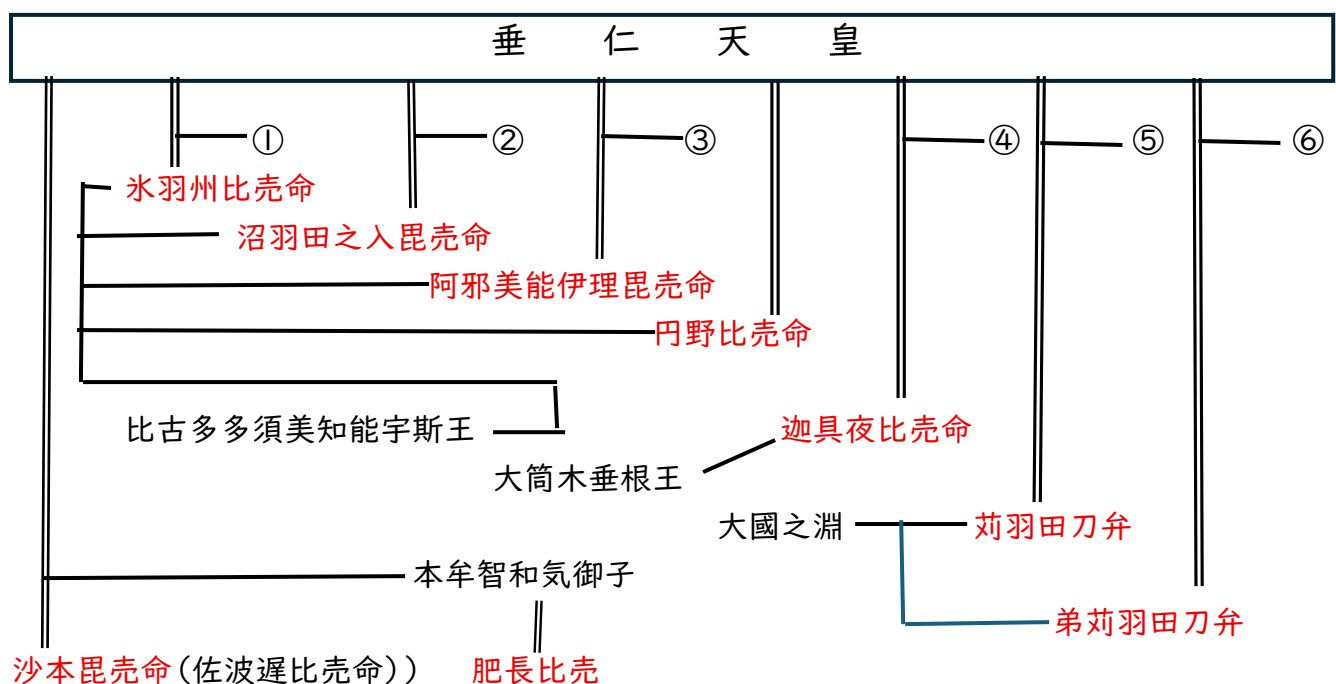
に言えば橘の木である。

天皇は御年153歳、陵は菅原の御立野(みたちの)の中にある。現代の地図で確認すると、近鉄樫原線の尼ヶ辻駅の西隣にあり、宝来山古墳と呼ばれる前方後円墳である。

大後の氷羽州比売命が亡くなった時に、石の棺を造る石棺作(いしきつくり)、埴輪などを造る土師部(はじべ)などの部民を定めた。後は狭木(さき)の寺間の墓に葬られた。この佐木陵山古墳は、平城宮の北東部にある。

<5> しめくり

項で「開化天皇を起点とした系図」をまとめたが、ここまできると役に立たなくなってしまったので、垂仁天皇を中心とした系図に書き直すことにした。御子の数は16人とのこと。



以上